プログラム

11月1日(火)一般講演

9:30~9:55	南マリアナトラフ拡大軸にある海底熱水系下の電気伝導度構造 木村真穂・島伸和・松野哲男(神戸大院・理)、 多田訓子(海洋研究開発機構)
9:55~10:20	ラウ海盆下の2次元比抵抗構造の推定 柴田侑希・島伸和 (神戸大)、水間恵子(TIS)、 木村真穂(神戸大)、小林聖也(総研大)、野木義史(極地研)
10:20~10:45	オマーンに学ぶデタッチメント断層発達プロセス 道林克禎・大原達也 (静岡大学理学部地球科学科)
$10:45\sim11:10$	結晶粒径温度計による上部海洋地殻温度構造の解明 ~ 1. 原理と応用 海野進・奥川歩美(金沢大・理工・自然システム)
11:10~11:35	結晶粒径温度計による上部海洋地殻温度構造の解明 ~ 2. オマーンオフィオライトの古拡大軸セグメントの温度構造について 奥川歩美・海野進(金沢大・理工・自然システム)
$11:35\sim12:00$	KH-10-6 航海速報-ロドリゲス三重点付近で採取された岩石類- 佐藤暢(専修大)・KH-10-6 乗船研究者岩石班
12:00~13:00	昼休み
13:00~13:25	KH-10-7 航海速報 ーコンラッドライズで採取された岩石類とその意義ー 佐藤暢(専修大)、野木義史(極地研)、石塚英男(高知大)、 佐藤太一(産総研)
13:25~13:50	"世界最深の海洋底かんらん岩,トンガ海溝かんらん岩の構造岩石学的研究" 新海優里・道林克禎・上原茂樹(静岡大院・理)、 石井輝秋(深田地質研究所)
13:50~14:15	マリアナ海溝南部カンラン岩の岩石学的特徴と構造発達 道林克禎・上原茂樹(静岡大・理)、 小原泰彦(海上保安庁、JAMSTEC)、石井輝秋(深田地質)
14:15~14:40	中部沖縄トラフ海底熱水活動域の海底下で起こる熱水変質反応 三好陽子・石橋純一郎(九州大院・理)、 Expedition 331乗船研究者
14:40~15:05	インド洋海嶺研究 〜ナマステ計画〜 川口慎介 (海洋研究開発機構)
15:05~15:30	NEPTUNE Canada 計画によるファンデフーカ海嶺 Main Endeavour 熱水地帯での長期観測

中村光一(産業技術総合研究所)

15:30~15:45 コーヒーブレイク

15:45~16:10 南部マリアナトラフ・沖縄トラフの海底熱水鉱床の U-Th

放射非平衡年代

賞雅朝子・中井俊一(東京大・地震研)、

豊田新・佐藤文寛(岡山理大)、石橋純一郎(九州大)

16:10~16:35 海底熱水性重晶石を用いた ESR 年代測定

佐藤文寛・金光真弘・豊田新・内田 乃(岡山理科大)

賞雅朝子・中井俊一(東京大学)、石橋純一郎(九州大学)

16:35~17:00 マリアナトラフにおけるアルビンガイの集団構造に関する研究

日高裕華(東京大学大気海洋研究所)、小倉知美(東京海洋大学)、

渡部裕美 (海洋研究開発機構)、

狩野泰則・小島茂明 (東京大大気海洋研究所)

17:00~17:25 中部沖縄トラフ伊平屋北海域に存在する熱水孔下生命圏

-IODP Exp331 掘削調査結果

柳川勝紀(東京大院・理・地球惑星)、

布浦拓郎・川口慎介・平井美穂(海洋研究開発機構)、

砂村倫成(東京大院・理・地球惑星)、

高井研 (海洋研究開発機構)

11月2日(水) IR活動30年史と次期計画への提言

9:30~ はじめに

9:40~10:20 中央海嶺での岩石学研究の現状と課題

佐藤 暢 (専修大)

10:20~11:00 海底拡大系の地球物理学的知見、この 10年

島 伸和(神戸大院・理)

11:00~11:40 熱水域の生物群集 進化生態研究と保全を巡る最近の展開

小島 茂明 (東京大·大気海洋研究所)

11:40~昼食

13:00~13:40 InterRidge 創設時から最初の **10** 年位の歩み

藤本 博己(東北大院・理、地震・噴火予知研究観測センター)

13:40~14:20 InterRidge に関わる化学的調査

蒲生 俊敬 (東京大・大気海洋研究所)

14:20~15:00 深海熱水系における化学環境と微生物生態系の関わり

ー 世界は ようやく追いついてきた

高井 研 (海洋研究開発機構)

15:00~15:40 海底熱水探査と鉱床-国際的に見た研究の口実と現場と成果の

錯綜の過去と将来-

中村 光一 (產業技術総合研究所)

15:40~16:00 休憩

16:00~17:00 総合討論